

令和２年度第1回教育・子育て部会

日 時：令和２年１０月２日（金）

午後６時４０分～午後７時３５分

場 所：淀川区役所第５会議室

○松尾政策企画課長代理

皆さん、こんばんは。本日進行させていただきます私、課長代理の松尾と申します。
どうぞよろしくお願いいたします。

それでは先月９月１５日に実施いたしました区政会議委員の意見交換会において、子ども教育部会のほうから御意見いただいてたものなんですけれども、数値目標の設定内容についてちょっと疑問に思うところがありまして、という御意見がございましたので、その御意見をもとに本日議題にさせていただきます。

まずこの部会で所管いたします学校教育支援と子育て支援の中間振り返り、これについてはまた皆さんのお手元のほうに、運営方針の概要版があると思いますのでこれをごらんになっていただきたいと思います。

その中間振り返りと数値目標の設定理由について、区役所の担当のほうから簡単に御説明、まず、させていただきます、その内容を踏まえて各項目の数値目標の設定内容について、どのようなものがあれば取組の効果測定を行う目標として望ましいのか、またあるいは現状の目標で問題ないのかというような視点で御意見いただきたいと考えております。

なお、意見交換会につきましては、今回の意見交換につきましては１９時３０分までお願いしたいと思います。その後、５分間休憩を挟みまして全体会議へ移りたいと思います。その全体会議でこの部会から出た御意見につきまして、発表していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

そうしましたらまず、学校教育支援のほうからお願いします。

○井上教育支援担当課長

教育支援担当課長の井上と申します。座らせてもらいます。すみません。お手元の資料の、表紙がこれの右下が9となっているページです。具体的取組2－1－1課題学習の推進、ヨドジュクから説明させていただきます。

授業の中身はご存知かも知れませんが、中学校の多目的室等を利用して、平日の時間外に民間事業者に入っていて、いわゆる塾をそこでやっていただくというものでございます。

決して進学塾ということではなくて、各生徒の習熟度に応じた課外授業を実施しています。塾代助成事業を利用できる制度となっておりますので、生徒あるいは保護者の皆様も通いやすいものであるというふうになっています。

左下の評価の指標、この事業につきましては2つ設定しております。

参加する生徒にアンケートを実施しております。それは入塾したときに通常でしたら4月ですけど、今年は7月開始となりましたので、7月の最初、当初のときと卒業を控えた2月頃に実施しております。アンケートは、週5日以上自宅学習に取り組むと回答した割合、数値目標の割合を30%、これを目標。

もう一つは実際の学力検証ということで、これも入塾した際、今年開始したのは7月だったんですけども、卒業する手前の2月に到達度テストというものをしておりますので、2回目、卒業する前の検証結果が最初のテストよりも上昇したという割合、これを6割以上という目標設定をしています。

現状ですけれども右下の課題のところにも書いているんですが、4月、5月は学校側が休業ということで、6月は1週目から分散登校で3週目からが一斉登校になったということですので、7月1日からこのヨドジュクは開始いたしました。

開始してこの数字ですけども、区内3カ所を実施しておりまして、十三会場19名、美津島会場が18名、東三国会場では18名、現在55名が在籍して受講している。

子どもの人数に関しましてはほぼ例年変わらない生徒数を計上しているところです。

続けて、説明をさせていただきます。次のページの上、右下 10 と書いてあるところ。これも具体的取組 2-1-1 として課外学習の推進という大きなテーマですが、これは小学生をターゲットにしたものでございます。放課後に当日、あるいはその週の学習を補習すると、補習を充実させるということで学習する習慣をつけようと、定着させるのが目的で実施しております。

こちらの事業の評価の指標ですが、左下、見ていただきたいですが、これも現在 2 つ設定しておりまして、全ての実施校において年間の平均した参加する児童の合計数、もう一つはこれも参加する児童にアンケートを取るようによりまして、以前よりも、この事業、受ける前よりも、受けてからのほうが実際の授業が分かりやすくなったと回答した実際の子ども数でございます。それぞれを指標としまして、1 つ目が児童の数が 360 人以上、2 つ目が 80% 以上という設定をしております。

これも現状ですけれども、6 月から部分的に学校を開いているところで、6 月に、1、2、3、4、5、6 校、7 月に 2 校、8 月に 1 校ということで現在 9 校が、小学生の補習事業を実施しているところです。9 月以降に実施するところも現在、調整中というところで進めております。

続けてその下、具体的取組 2-1-2、学力向上支援、淀川漢字名人育成計画。いわゆる漢検の検定料を区役所が負担している事業でございます。これも子どもの学力の向上ということですが、漢字の能力だけの向上ではなくて、子どもたちが検定を受検し、合格したことによって自分に自信を持たせるというのも 1 つの目的としております。

受検する学年は中学校で学校が指定する 1 学年、小学校に関しては 17 小学校、校長全てが小学校 5 年生でというご要望ですので、小学校は 5 年生の 1 学年をターゲットに実施しております。

こちら受検する子どもたちに全てアンケートを取っておりまして、左下の指標に

ございますが、漢検の受験、漢字の検定をきっかけに自分で勉強する、自宅で勉強する時間が増えたというふうに答えた、肯定的な回答をした割合、これを目標70%と見据えております。

こちらは中学校で1校、実施した状況でして、まだ実際の検定は今年の10月、11月、そして来年2月ぐらいに検定を実施するところですので、ほぼ予定どおりに進められるのではないかと考えております。

また、いろんな事務作業が出てくるので、現場の学校の先生に大きな負担をかけないように、事務をできるだけ区役所側と共通してできるような感じで、先生方への負担をできるだけかけないような形で進めていくように工夫しているところです。

続けて次のページの説明いたします。

右下12と書いてあるところ。具体的取組2-1-3、子どもの睡眠習慣改善支援、ヨドネルという事業です。睡眠と学習習慣に関係がある、相関性があるというデータが出ておりまして、区役所で現在取り組んでるのは睡眠の習慣と改善であったり、睡眠の質の向上であったり、そういった内容を啓発するようなリーフレットの作成等、そういったリーフレットを活用して、学校において地域や保護者、子どもたちに対して講演会を開催している状況でございます。

これも指標が2つ設定しておりまして、学校は年度当初、始まるまでにその学校、1年間の運営計画をたてられます。その中に睡眠習慣を改善する取組を学校としても積極的に取り入れますというふうに答えていただいた学校の数としております。

2つ目はこれ今年から目標設定をしたんですけれども、無作為抽出の区民アンケートにおいて、この事業がどれだけ区民に知られているか、というところをちょっと測ってみたいなというところでこの指標を設定いたしました。

1つ目の目標値としては小中学校23ございまして、全ての小中学校で取り組んでいただくことを目標とし、ヨドネルの知名度の区民アンケート調査におきましては、せめて1割にということで、11%というふうな設定をしております。

こちらの現在の状況につきましては、いろんな講演会の実施、6月頃から想定していたんですけども、ちょっと延期したり、まだ中止は決定してないですけども一部、講演する先生が医療関係者で、その職場を出られないということで、オンラインでの講習会というのを今、進めているところです。

コロナ禍において実施していくにあたってちょっと工夫が必要な状況に今、なっているんですけども、全く中止ということではなくできる範囲で工夫してやっていく状況でございます。

以上、私のほうからここまででございます。

○松尾政策企画課長代理

一旦、ちょっとここで区切らせていただきまして、今の御説明、聞いていただきましてその中で、評価の指標のところで御意見ございましたらいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

どうぞ。

○中道委員

ヨドジュクですけど、目標値とかちょっと私よく分からないんですけど、結局よく分からないんですけど、これ全体で55名しかヨドジュクは受けてない。対象の学校が3つ。

○井上教育支援担当課長

3校です。

○中道委員

3校、中学校。

○井上教育支援担当課長

6中学校があるうちの、3中学校。全ての学校でできたらいいんですけど、会場が設定できない、1階にないとか、門がないとか、そのような物理的にできないところもありますんで、区としては美津島中が淀川区内の西部に、十三中がちょうど中央、

東三国が東部ということで、全ての居住されてる方が通しやすい位置設定はできてるかなと思ってるんです。

○中道委員

3で割るとだから十何人。

○井上教育支援担当課長

そうですね、1校当たり、20名弱。20名が定員。学校によってですけど、20名定員と30名定員とある。

○中道委員

対象の人数は何人、やっぱり全員。1年、2年、3年。

○井上教育支援担当課長

中1、中2。1から中3全部です。

○中道委員

その中の十何人。ほとんどあまりあれですかね。人数的にね、その意味があるのかなと思ってしまって。あとね、半分ぐらい、半分無理なんですけど、すごいこの対象人数に対して55名しかないの、それに対して30%とか60%っていう。

○井上教育支援担当課長

70定員のところに55来ているという感じで受け止めていただけたら。

○中道委員

70しか、もともとない。

○井上教育支援担当課長

もともと定員が。

○中道委員

ああ。そう。

○石田委員

いいですか。これ前にも部会で話したときに各単位というか、単位か、中学校に1

つとか、そうやって場所はないとおっしゃるけども、何か探す努力をして希望的には各小学校に1つぐらいの何か、そういうヨドジュクをつくっていただければ、みんなが来やすいのではないかなっていうのは前からみんなで話し合っていました。

それが1つ、まあ御提案というか、1つできないかなっていう御提案とその評価の指標について、1番ですけど週5日以上 of 自宅学習に取り組むというので、やっぱり週5日以上といたら何か5日のイメージがあって、毎日するのが自宅学習のいいところだと思うんですけど、まあ、日曜日はできないかもしれないですけど、やっぱりちょっと目標なので毎日とか、何かそういうのが希望、はい。

○井上教育支援担当課長

文部科学省がやってます学力調査って御存じかと思うんですけど、そのときに生活実態調査というのを一緒にやってまして、その設問をちょっと、その答えを持ってくるんです。

○石田委員

ああ。

○井上教育支援担当課長

このためだけのアンケートを取ったのではなくて、その子どもが実際、別のアンケートを取った部分でおっかけてきた数字で、本当は確かに、土曜も日曜も頑張っている話です。

○石田委員

自宅学習で何でもいいんです。別に勉強だけでなく本を読むとか何か、そういう少しでも机に座って何かするとか、そういうことが毎日できればいいのではないかなと、そう親としてはというか、そう思うんですけど。

○米田委員

場所がないっていうことをおっしゃられたときに、地域に声をかけたら、その地域の中で福祉会館とかでも交渉の中で、もしかしたら使用できるんじゃないかっていう、

私は新高ですけども、新高もきっとそういう子どもためにも思ったら、新高はオッケーしてほしいなと思って、こっちからも声かけてみたいなと思うんですけど。

そうやって学校だけじゃなくて地域にも、地域の福祉会館などもお借りするっていう方法もとったら、もうちょっと場所も増えるし、三国校区から東三国に行きにくいところありますね。それが自分の校区内にあると行きやすくなるんじゃないかっていう意見もあったんですよ。

○井上教育支援担当課長

確かに他の区ではね、そういう会場を探してやっておられるところも、区はあるんです。そういったところは、どういう話をして会場を確保しているのか、ちょっと情報を集めて研究します。

○石田委員

そういう情報を集めていただいたら淀川区でも可能なんですか。

○井上教育支援担当課長

会場を増やすということだけじゃなくて、実際には塾の経営者も、経営が当然必要ですので、ある程度子どもを集めないと成り立たないっていうのはありますよね。

今、実施してもらっているところは、今の20人弱、1会場でプラスが出るか、出ないかぐらいというところですので、それより集まらなくなると実際に塾の事業者の手が挙がらない可能性があるので、そこは会場ができたから早く整備してだけじゃなくて、子どもたちはどれぐらい集まるんだろうというようないわゆる市場調査もした上で開設しないといけないと思ってるんです。まず、当然会場はね、確保しないと市場調査できないんで、そこは研究してみないといけないと思っています。

○米田委員

予算のこととか言われるとちょっと困るんだけど、場所に関しては、どこに地域のものを利用するっていう場所提供ができるかなっていう。予算のことについては区政の予算があると思う。それにそうなれば場所提供はそちらでいけるん違うかなって。

○井上教育支援担当課長

使用料を免除いただけるという。

○米田委員

そういう形もやっぱり相談、子どもたちのためについていうか、そこの地域に関しては使用料はいいよっていう形にしてくださるんじゃないかなって。そう言っていたきたいなっていうのがある。

○松尾政策企画課長代理

ほか何かございませんか。今年はちょっとコロナの関係で授業のスタートが遅れている部分もあってなかなか中間振り返りもね、毎年のようにしっかり事業実施した中の振り返りでないのがちょっと何とも申し訳ないんですけれども。

○米田委員

2－1－1の小学生の補習事業、補習の充実というところがあるんですけど、この指標についてなんですけど、各学校によってどういう生徒を対象にしているかというのがあると思うので、この目標値350人以上というのがすごく、新高は2つの学年、以前は2つの学年で募ってたんです。するとやはりその人数という、この350人にはならないんですよ。

この目標値。

○井上教育支援担当課長

全体、全体で。

○米田委員

ああ、全体の、ああ、すみません。なのでそれと、授業が分かりやすくなったっていうこの回答があったんですけど、この中に勉強の方法というか、新高に関していうと、うちの娘がちょっとここで、先生として教えたときがあったので、行ったんですけど、学校によっては何を勉強するかは宿題を、学校の宿題をやったりとか、ほかの課題があってそれを提供したと言って、学校ごとに何を勉強するかっていう違います

よね。。

○井上教育支援担当課長

学校の立案にお任せしてるんです。こちらからこれっていうふうな提案は、教育の専門家じゃないので、できませんので、学校がこんなことしたい、何年生にはこんなことしたいと、この指導員、連れてきたというか、見つけましたというような相談を受けて、じゃあこういう支援しましょう、何曜日にしましょうと、そういう。

○米田委員

制度的にちょっと、娘がやっぱりその宿題をやって帰って、家に帰ってからせんでもいいからして帰るわみたいな感じで、やっぱり、うちの娘からすると、せっかく、分からないこと聞いてくるのかなと思ったら、黙々と宿題をしてて、2年前の話ですけど、しててというのがあって、ここをもうちょっとどういうことを、子どもたちに指導したほうがいいのか、細かく提案されたほうが、やっぱりここで以前より授業が分かりやすくなったっていう、すごい漠然な指標になると、ここに学校によってはちょっと受け止める度合いが違うのかなとちょっと。

○井上教育支援担当課長

それぞれ学校の思いがいろいろあるんで、同じようにはちょっとできません。やはり予算の限界があるんで、何卒しかできないですよっていうことを示すのも心苦しいのもあったり、使えるお金の分で、学校はこういう計画を立てるっていうようなことなので、宿題ばかりさせてという。

○米田委員

当然2学年だけっていうのも、全生徒にっていうのがね、やっぱりない、なかなかマンモスで多いから、人数が増える予算的なものが困るのかなと思ったけど、何かもったいないなっていう気がします。

○石田委員

何かね、参加をして申し込むだけ申し込んで、行かなかったりとかする人がたくさん

んいると思うので、実質のこの参加人数っていうのは、これではないような気がします。申し込むだけ申し込んでおこうと思って、最初の4月に申し込んで行かない。

○井上教育支援担当課長

ちょっとそこは追求してみます。

○石田委員

はい。

○井上教育支援担当課長

一応結果としてもらってるデータなので、我々は信じてるんですけど。

○石田委員

ああ。

○井上教育支援担当課長

そこはもう一回ちょっと確認します。

○松尾政策企画課長代理

ごめんなさい、もっといろいろあると思うんですけど、一旦ちょっとここでまた区切らせていただいて、次の説明させていただきたいと思います。すみません。

○越智担当係長

すみません、保健福祉課保健福祉の越智と申します。どうぞよろしくお願いします。座って説明させていただきます。

お手元資料の具体的取組2-1-4、生活困窮世帯の子どもの学習支援、子ども未来輝き事業をごらんください。ちょっと書いてないところも含めまして、口頭で説明させていただきます。

先ほどの説明にもありましたように、この事業に関しましても、コロナの影響をともに受けまして、4月からのスタートができずに7月からのスタートということになっております。それを受けまして区民センターが利用制限のかかったメイン会場である区民センターが使えなかったというのもありまして、7月からというスタートと

いう形になった次第でございます。

ただ区民センターにつきましても、今も現在使用人数に関してコロナの関係で半数が定員となっております。つまり年間で押さえてた区民センターで、規模の小さい部屋で定員ですね、10人の、もともと10人のところに今やったら5人の利用が認められているんですが、6人の利用がある場合はその部屋、使えません。そういうことでそういう場合は区役所ですね、区役所の会議室で代用しております。生徒の皆さんにつきましては区民センター行ったり、区役所でやったりとか、ちょっと日によって異なる場合があるんですが、御協力をいただきながら実施しているところでございます。

こちらに関しましてスタートが7月からとなったんですけれども、こちらに関しましては取組の中にも書いておりますキャリア教育ですね、さまざまな経験を持つ大人の意見を聞きながら自分の将来の計画の参考にさせていただくということで、キャリア教育の実施もしております。

また体験学習ということで学習だけではなくって、いわゆるその体験的にものを通して、体験をして何かしら感覚を養っていただくということを予定しております。

これに関しましてキャリア教育の年6回、また体験学習年2回、当初予定しておりました。コロナの関係で7月からのスタートになりましたら、やはりこの2つのキャリア教育、体験学習に関しては期間が短くなったから減らすと意味がないんじゃないかということで期間が短くなった中でも、この体験学習、キャリア教育に関しては当初の回数を実施する予定で今、進めております。

具体的には来月に2回、体験学習をやります。キャリア教育も12月までにこの6回をやりきるということで計画を立てて実施しているところでございます。

現在、淀川区内で51名の定員で実施させていただいておりまして、9月末現在で43名の利用、また10月に新たに2名の追加ということでお申し込みをいただきましたので、本日現在でいきますと45名の利用者という形で御利用いただいていると

ころでございます。

こちらに関しましては小学校1年生から中学校3年生、9学年を対象とした事業としておりますので、以前昔の評価の指標といたしましては高校進学率100%という目標を掲げてた時期もありましたが、利用者が先ほど言いましたように中学校3年生だけではございませんので、幅広く小1から中3までと、また学習機能だけでなくキャリア教育とか通じて、将来の目標の役に立ったかというようなこともありまして、ちょっと指標としてはゆるった感じに映ってしまうかもしれませんが、幅広く参加者の満足度を測るということで、このような指標とさせていただいているところでございます。

現在いろいろやっております、このような形で一部事業の回数としては7月からとなったことで少なく、年間回数は減っているんですが、それ以外に関しましては何か期間の中でまた中学生の受験の、それまでに方向性を示すキャリア教育は実施して進学等にお役立てできればいいなという形で進めているところでございます。簡単ではございますが説明は異常でございます。

○松尾政策企画課長代理

そうしましたら今の御説明させていただいた内容をもとに、ちょっと感じていることをまた意見交換していただいたらと思います。

○中道委員

この中に不登校の児童・生徒も含まれる話してましたか。前も聞いたかもしれないですけど。

○越智担当係長

今も来ていただいている生徒さんの中には不登校というキーワードの生徒さんっていうのは存在、いらっしゃるんです。

○中道委員

ここは、一応、貧困という感じの。

○越智担当係長

そうですね、貧困ということで、貧困からの脱却、負の連鎖を断ち切るということでその進学率を上げる、また小さなお子さん方に関しましては、学習の習慣を身につけていただくというところを一つ目標としておるところです。

○中道委員

ああ。本人、本人というか、家庭が言ってるというか、調べて。

○越智担当係長

そうですね、基本的に根本が生活困窮からの脱却という形、生活困窮制度という形になりますので、その生徒さんに関しましてのその世帯としては生活保護世帯、また。

○中道委員

に、呼びかけてという感じ。

○越智担当係長

そうですね、あとはひとり親家庭ですね。8月とかに児童扶養手当とか、ひとり親家庭の年1回の手当ての更新の時期があるんですが、そのときにも広く呼びかけをしまして、新たな生徒さんの募集とか。

○中道委員

希望者の人がってこと。

○越智担当係長

おっしゃるとおりですね。そういうので追加でぱらぱらと申し込みを頂戴しております。まして、今現在45名という形で運営させていただいております。

○西澤委員

学習支援というのね。学年が広いということもあるし、そういうところで個々にやっぱり学力差っていうの、差異もあるし、それから本人のこういうところへやってきて何を期待しているかとかね、まちまちな中でね、何を目標として、設定するのかという辺りね、非常に難しいと思いますわ。出たところ勝負でね、子どもさんのほう、宿

題教えてほしいいうのもあればね、もっと詳しいところをね、学びたいというね、そういうニーズまであるでしょう。そうなってくると目標設定そのものが難しい。でも進めんといかんという、立場もよう分かるんで、僕らもうちょっと整理していくような形をとらないと、なかなか実のある思いにならない。

○越智担当係長

おっしゃるとおり利用されてる小学校1年生のお子さんと中学校3年生のお子さんが同じ目標で来てるかという、なかなかやはり温度差もありますので、またクラス一緒になるとどうしても小学生のほうに、どうしてもちょっと、ぽちゃぽちゃと遊んでしまうとかもありまして、ただやはりそういう部分もありまして、極力、ここにも書いてありますが、3人に1人の講師をつけてやっております。

そういう形できめ細かく目の行き届くような形での対応をさせていただいているところでございまして、先ほど西澤様おっしゃっていただきました共通の何にターゲット絞って目標にするか、非常に学年が広うございますので、何かこれっていう抜本的な目標が立てれば、なかなか立てにくいというのも、この事業のもやもやとしたところがございます。すみません。

○西澤委員

集まってきた子どもの実態の中でどういうものに絞り込んでいくかっていう、本人も継続してね、宿題だけ何とかするんじゃないかってね。計算もうちょっとしっかりやりたいとかね、そういうもうちょっと目的意識を持たした上で、どうこれ継続して回数もそんなに多くないわけですね。その辺りの設定、目標設定と回数との関係、絞り込んでいただいて。

○越智担当係長

そうですね。ありがとうございます。

○松尾政策企画課長代理

どうもありがとうございました。そしたらまた次、ありますので一旦ここで区切ら

せていただいて次の子育て支援のご説明よろしくお願いします。

○武田保健・子育て支援担当課長

区役所保健・子育て支援担当課長、武田です。私も座らせて説明させていただきます。

すみません、資料のほうは15ページをごらんください。プレパパ・ママ等ファミリー子育て教室ですけれども、初めて子どもを出産される方、そのパートナー、祖父母等を対象に子育てに参加するきっかけづくりとして、身近な地域で沐浴や抱っこ、着替え体験等を行っている事業となっております。

中間振り返りのところの指標、評価指標ですけれども、育児を母だけではなく家族で担うきっかけづくりとして、特に初産婦の方と御家族の参加が重要となりました。

大阪市の全体でもプレパパ・ママの育児セミナーをやっておりますので、その参加者も含めてプレパパ・ママ教室に参加した区内の初産婦の割合を指標として設定をいたしました。

目標値につきましては、実は区内の初産婦さんの数というデータがございませんので、区内の出生数に全国では1人目の子どもが生まれた割合というのがデータとしてありましたので、そちら、かけ合わせまして、淀川区の初産婦数として計算して、そこと大阪市全体でやっているところで、淀川区民の方で参加された初産婦さんの数と本事業の定員数をちょっと考慮いたしまして、50%やっただけかなというところで初産婦の50%以上の参加を目標値としたところでございます。

課題と改善策のところですが、新型コロナウイルスの影響で初回が8月になってしまいまして、年4回の開催時期に偏りが出てしまったような状態でございます。8月実施では申し込みは定員が40名を超えたんですけれども、当日、やはり体調不良等で参加者37人となっています。現時点では、本当はおじいさま、おばあさまとか考えてたんですけれども、会場の大きさがちょっと限られておりまして、実質的にプレパパ・ママの参加に限ってやらせていただいております。

また大阪市のほうのセミナーがずっと中止中になってしまっておりまして、そこ、合算したところを目標値にしてしまっているのも、実績値には影響が出るような見込みとなっております。

またこのところに淀川区の妊婦教室のところに書いてるんですけども、やはり新型コロナウイルスの関係で、ちょっと妊婦のみの参加となっておりますので、その辺でもちょっと実績値に今後、影響が出てしまうような状況となっております。

続きまして、16ページの地域子育てサロン助産師巡回相談のほう、ごらんいただきたいと思います。

こちらは区政会議の御意見いただきまして実施している事業ですけれども、身近な地域で開催される地域子育てサロンに助産師が訪問し、授乳相談とか、産婦相談を行う事業ということでございます。

中間振り返りのところを見ていただきますと、昨年度、今もお話ありましたけれども、区政会議の部会で特に子どもが乳児の頃というのは外出するのが難しくて、周囲に相談先もなくて孤立しがちという御意見がありましたので、乳児の参加を増やすというような指標設定としております。

目標値につきましては平成30年度にも平日開催の地域子育てサロンに出向いて私も職員も、保健師と栄養士が子どもの健康相談とか、食事指導とかをさせていただいたんですけども、そのときに参加者に占める乳児の割合というものが助産師が巡回すれば当然、増えるだろうと35%以上ということで設定しております。

課題と改善策でございますけれども、こちらも新型コロナウイルスの関係で、まだ今年度地域の子育てサロンが開催されない状況になっております。ですのでこの事業もまだ未実施ということになっております。

子育てサロンが再開されればまた当然、また実施してまいります。再開するめどが立たないこともちょっと想定しておりまして、その場合は子育てサロン以外でもどこか場所をお借りしてできないか検討していきたいと考えております。

その場合は地域子育てサロンにおける開催ではなくなるので、やはり実績値を取るときは、その分が測定できないという場合が生じてしまうというような形でございます。説明は以上です。

○松尾政策企画課長代理

そうしましたら御意見いただきたいと思います。子育てに関しましては多くの人に事業に参加していただくというのは、目指した目標値になっているんですけれどもその辺もいかがでしょうか。

○米田委員

子育てサロンについてなんですけど、私も主任児童員をしてもらって、今新高やっぱりやってない状況で10月ちょっとしない方向なので、委員長会議の中でお聞きした中では2地域だけはちょっと10月から再開してみようかっていう話なんですけど、やはりもう試行錯誤でやっぱり、子どもがその1メートルから離れてというのは絶対無理なことであって、やっぱりその消毒面から考えて、やはりそうなんですけど、本来、ちょっとこれとずれてるんですけど、子育てサロンというのは、もともと子どもが家に引きこもってたりとか、来られない子ども、親御さんとかを来てもらって、従来の子育てサロンって当初聞いてたんですけど、いろんな方、来られている方がいっぱいいてるなかに、そういう人も対象であればこれは合ってると思うんですけど、本来の子育てサロンのあり方っていうと、最近ちょっとずれてるのが、すごく違和感があって、そういう来れない人たちを地域のそういうちっちゃい、こじんまりしているところに来てもらって、そこからだんだんお友達も増えてもらってっていうような本来なので、ちょっとそこら辺がやっぱり出産した後とかに、やっぱり今、ちょっとこういうコロナ禍の中で産後うつとかいろんな方がいらっしゃるって、やはりそういう人らが来ていただいて、居場所づくりっていうのになってほしいというのは、新高自体はその気持ちなんです。助産師さんが来ていただけるっていうのは、新高もすごくありがたいなと思ったんですけど現実には開催できないので、延期に

させてもらっている状態なので、やはり来ていただいている方に関しては、いろんな方が来ていただいて話していただけるっていうのはすごくありがたいんですけど、すごく両方複雑で来ている方に関してはいいことだと思うんですけど、本来はそうじゃない方に来ていただくっていうのが子育てサロンとして、不思議なままで。

○武田保健・子育て支援担当課長

今のよく御参加されている方は割とスマホで情報得ていて。

○米田委員

そうなんです。いろんなほかの地域から。

○武田保健・子育て支援担当課長

いろんなところの情報を得られて来られると思うので、この事業も委託事業になっているんですけども、委託事業者の方がサイトをつくってまして、決まったら情報を発信してくれると思いますので、それを見ていただいて、ちょっとお近くのサロンへ来ていただいたら。

○松尾政策企画課長代理

ほか何か。

○中道委員

35%のところはちょっと分からなくて、参加する乳児の割合っていうのがちょっと分かりにくくて。

○武田保健・子育て支援担当課長

こちらで作成したときに、参加人数の統計を取ってるんですけども、そのときに乳児、ゼロ歳児と就学前の幼児っていうような分け方をしてまして、大体その幼児までの方がご参加されるので乳児何名、幼児何名というのが出るんですけども、昨年度のデータでいきますと乳児の割合は、平成30年度で24%になってます。

そこで助産師の方が来られると当然、乳児が増えるだろうというのがあって、大体3人ぐらい来ていたので、そこで3人、乳児を追加していくと、うまくいく計算です。

○中道委員

そういう、別にゼロ歳児、できるだけ来てほしい。でも把握はしてませんよね、だから全然。どこの地域にどんだけ0歳児がいるのかとかいうのが、今、分からないけど。

○米田委員

各地域では一応、名簿、来てもらったとき出席をとるから誰が何歳児やっていうことと分かるんですけど、それは区にも上げてない。地域の会議では個々に報告書とか出すから、乳児何人で話していたと。

○武田保健・子育て支援担当課長

うちの保健師がいろんな健康教育に行ったときに、その時の参加状況を区役所に持ち帰って。

○石田委員

淀川区で生まれた子供の何%が参加してくれたらいいなって感じですか。

○中道委員

そうなんです、何となく分かりにくい。

○石田委員

ちょっと視点が違うと思うんですけど、中道さん、そうです。一緒ですかね。淀川区内で新生児が生まれた、その子たちの参加率が何%以上あればいいかなって思います。今、来ている人の子どもたちの参加率っていうか、幼児の割合ではない。いや、乳児の割合じゃなくって、はい。

○武田保健・子育て支援担当課長

淀川区の中でゼロ歳児はつどいの広場というのがあるんですけど、例えば木曜日の9時から10時はゼロ歳児さんの利用と決まっていて、つどいの広場なんかは割と早く再開してますので、今そちらのほうに行かれてる子どもさん多いのかなと思っています。

ですのでゼロ歳児のお子さんがおられる保護者の方が出かけやすい出先としては当然子育てサロンもあるんですけど、つどいの広場もありますし、一時預かりで預けられたりとかもされるお母さんもいらっしゃいますので、いろんな場所があるんです。ご自分のおうちから近いというところで子育てサロン、とても大事なかなと思っておりますので、このような事業を。

○石田委員

そこに行かれるというか、淀川区に今、新生児が生まれましたよっていう届出っていうのは何人というのは分かるのですかね。

○中道委員

そうです、はい、そういう感じやったら分かるんですけど、何かこの。

○石田委員

そう、そう、その設定の仕方が。

○米田委員

淀川区に子どもたち生まれて、その子たちがいろんな地域に行って、やはりそのゼロ歳児の子が参加してくださるというのがあれなんですけど。きっとこれは、地域ごと単位での評価をされてるから。

○石田委員

ですね。ちょっと視点が違うかなと思うんですけど。

○米田委員

本来はそっちのほうがいいと思うんですけど、やっぱり、引きこもったりとか、いろんな思いで来てくれる、これは活発に行ける人の。

○石田委員

そうでしょう。行ける人のパーセンテージやからね。

○米田委員

やっぱりちょっと。本来とはちょっとずれたかな。

○武田保健・子育て支援担当課長

出生数が平成29年度で1,450。

○中道委員

1,450。

○石田委員

1,450。そのうちの何%かがこういうのに参加されるといいなっていうパーセンテージの設定が何となく、ぴんとくるかなあって感じなんですけど。

○武田保健・子育て支援担当課長

この事業が子育てサロンで助産師が巡回するっていう事業になってますので、事業の指標としては多分、子育てサロンの何かっていうことなんですけど、おっしゃっていただいたのは、少し大きな視点での施策というか、役所のやってることの評価としてはっていうことかと。

○米田委員

きっと生まれた子が1,450人の子が18地域の全部どこかに該当しますよね。該当するとなるとそこの全体像として見えます。これだとすると1,450人の中の何人が新高にいる、何人が新高にいるっていうのが分かれば、この指標でもできるというで、でもそれが分からないまま、漠然とした35%というと、例えば新高に10人、ふだんは来てました。その中の4人だったら35%超えるから、その指標どおり、よかったですねっていう話になりますけど、その全体像が分からないとどこの地域に何人の子どもが出生したかっていうのがわかればまだいいんですけど。

○石田委員

その子育てサロンとかに参加する人数がその全体の35%超えたらいいのですけれども、その子育てサロンの中に来ている人だけのそのゼロ歳児のパーセンテージというのはちょっとどうかな。

○中道委員

どう言ったらいいのかな。分かりにくい。

○米田委員

それが必要なのかなっていうか、その指標が成果が必要なのかな。

○松尾政策企画課長代理

今回ちょっと指標に関して不思議に思われてるというような御意見、かなり出たと思います。とりあえず主だったものはここに書かせていただいているんですけども、ちょっと次の全体会議で、ちょっと発表していただきたいなと思いますので、どなたかまた、よろしくお願いいたします。

ちょっと、とりあえず5分間休憩させていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。